

乾隆学区の自治と取り組み

京都市は他に類例を見ない学区（小学校区）ごとの町割り、自治が行われており、各小学校を中心とした地域と住民の関係はとてとても深く結びつき、独自の文化や相互扶助の精神を育んでおります。その中で、私たちが自治連合会及び社会福祉協議会の会長を務めさせていただいております乾隆学区について、少し思うところを述べたいと存じます。

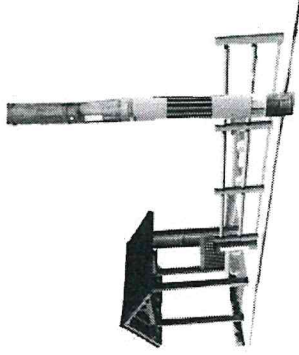
この乾隆学区は西陣織を生業とした町衆を中心として形成された地域で、西陣織の分業工程との関係から住民同士の助け合い精神が育まれ、現在もその心が大切に受け継がれています。

乾隆学区は、御所の西北（いぬい、乾）の方角にあ

り、その方角の地域の隆昌を願って「乾隆」と文殊院住職山田豊園師によって明治9年に命名、選定されたものであり、それまで上京第一番組小学校（明治2年9月創立）、上京第三校（明治5年学制の変更により改称）と称されていた学校名をさらに改称したものであります。

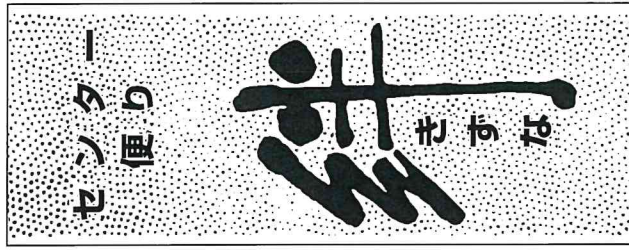
上京第一番組小学校はその創立に当たり、当時の地元住民が歴史、伝統、文化、教養を将来担う子どもたちの活躍を期待して自ら資金を出し合い建てられたものであり、途中さまざま困難を迎えつつも、現在に至るまで地元住民は自治連合会を組織し、諸行事の決定などを行い、自治を守り続

けています。
乾隆小学校は来年9月15日に、創立150周年を迎えます。この記念すべき創立150周年を前に、今秋に学区民念願であったふれあい広場が開設されることになりました。この広場は旧寺之内交番所跡地を有効利用したもので、平成30年度上京区運営方針にふれあい広場と



「乾隆くわの木広場」（イメージ図）

評議員 赤井 英 俊



第175号

発行所
社会福祉法人
西陣 会
HP: <http://www.nishijin.org>
E-Mail: nishijinkai@nishijin.org
〒602-8464
京都市上京区元誓願寺千本東入ル
TEL (075) 451 - 8971
FAX (075) 451 - 5700
発行者: 水上 雄一郎
編集責任: 浅田 将之
郵便振替口座
01030-5-23086

ホームページでも
ご覧になれます

当法人への寄付
金は、課税控除
対象となります
ので、その為の
受領書が必要な
方はお申し出下
さい。

して予算化され、府と市（上京区）の協同により実現しました。土地面積は26㎡と小さな広場ではありますが、東屋などは京都の木材を使用、子どもから高齢者まで地域住民のコミュニテイの核となる場としての活用が期待されます。この広場の名称は「乾隆くわの木広場」としてあります。

よく知られていることですが、桑の木の葉は蚕の幼虫が食し、繭を作ります。この繭から絹糸を引き出します。こうした絹糸は、実に当地の伝統産業である西陣織などの絹織物の原点であります。西陣の地で育つ子どもたちが広場の桑の木を眺め、また育てながら西陣の文化、伝統を学んでほしいという学区民の願いを込めているところであります。

創立150年を単なる記念日とするのではなく、子どもたちが将来、地域の文化、伝承を自分たちの言葉で語れる大人となる出発日としたいものであります。

乾隆自治連合会、社会福祉協議会は、地元根ざした活動を行い、住民の方々が「いつまでも住み続けたい」「まちづくりへとより一層邁進していきたい」と思っております。

さて、私が西陣会に関わるようになりましたのも、「誰もが、障がい者、健常者の別なく人間としてこの地域で生活し続けたい、この地域に生まれてよかった」と感じていただきたいという願いが共通しているからです。西陣会職員の皆様は温かい思いやりの精神に根差した支援を拝見し、且つまた障がい者の方々が精一杯活動されている姿を目の当たりにし、地域福祉に携わるひとりとして、これからも西陣会を応援していきたいと切に思っているところであります。

最後になりましたが、当学区を紹介させていただく機会を与えて下さった西陣会の皆様に深く感謝申し上げます。

西日本豪雨災害に思うこと

支援センターにじぶん相談員 藤原 暢子

平成三十年六月二十八日（七月八日）にかけて、西日本を中心に集中豪雨があり、広島県・岡山県・愛媛県を中心に甚大なる被害があり、多くの被災者が避難生活を強いられる状況となりました。被害を受けた地域の支援活動に入るため、七月二十八日～八月一日、京都府DWA(T（京都府災害派遣福祉チーム）の一員として、岡山県倉敷市真備町にある岡田小学校に設置された避難所の運営補助等に参加しました。

真備町は、豪雨で東西に流れる小田川が複数個所で決壊し、その北に位置する真備町が、広範囲に渡って浸水しました。

二階まで浸水した建物が多くあり、地面も畑も家屋も泥だらけで、濡れた家財を出し、カビないように壁等をはいだ家は空洞化しており、町はガランとして人影が見えない状況になっていました。

その地域で少しだけ高台に建っていた岡田小学校は避難所となり、北館と南館の各教室、体育館を生活空間として、約三百五十名の方が避難生活を強いられました。北館・南館教室には、部屋の大きさによって三～六世帯が段ボールベッド等で空間を仕切りながら生活され、体育館では段ボールベッドと紙製ポールで仕切りが設置されているものの、仕切りの布は開けて誰からも見える状態で二百名弱の方が団体生活を送っていました。

岡田地区は高齢の方が多く住んでおられ、介助を必要とする方も多くいらっしゃいますが、



住んでおられる方の繋がりが強い地域でもあったので、なんとか過ごしておられる状況でした。

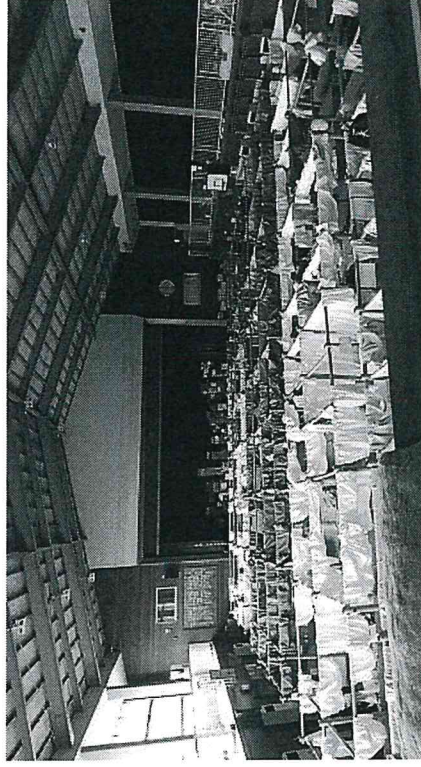
そのような中で、私達ができることは、居住スペースとしていても十足で埃っぽくなっている所の掃き掃除をしたり靴を整えたり環境調整をしながら、避難されている方と小さな言葉を交わし体調等を気遣い、少しでも避難所での生活の負担を軽減していくことでした。お話を聞く中で、『まさか二階まで

浸かると思わなかったから……土壁だし、もう倒すしかないね。仕方ない……』『避難時のサイレンの怖さからか、子ども達が側を離れない。保育園等にも行ってくれない。多動で力も強いから、二人をみる状況にだいぶ疲れている……。ずっとこのままだとうしよ……』『これは天災じゃなくて人災。川が氾濫しそうなのは解っ

ていたことで、工事が遅すぎた。』『ぶつけられない怒りや悲しみ、不安を抱きつつも、手伝ってくれるボランティアさん達に

感謝しながら、行ける人は、毎日暑中自身の家の片づけ等に行かれています。

八月末で被災から概ね二カ月が経ち、小学校が始まるため、教室を明け渡して体育館だけが残る状況になりました。真備町だけの避難者を見ても、九月末にできると言われる仮設の数はかなり少なく、この地域を離れざ



るを得ない方も多くおられるのだと思います。

避難された方々が体験された災害や思いは特別だからではなく、ここ京都で起こってもおかしくないことだと思います。今も続いている被災に対して、出来る人が出来ることをしていきながら、今後京都で起こるかもしれないことにどう備えるのか。頂いた機会を大切に考え、動いていきたいと思っています。

おじやりやれ

「福島県の子供達が八丈島へ」

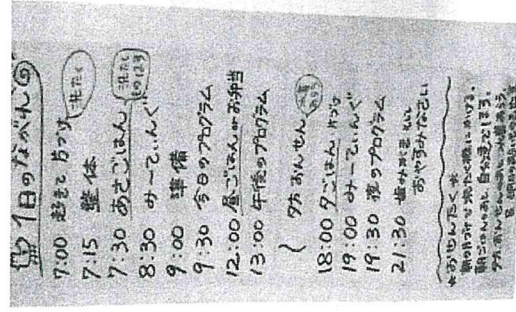
西陣会ホームとなり副所長 赤尾 幸雄

2011年3月11日、この日に起きた東日本大震災がすべてのきっかけになります。津波や原発事故による甚大な被害、特に福島県では放射能の問題があり、慣れ親しんだ場所を失い、遠く離れた場所で生活されている方も多くおられます。このような状況下で暮らす子供達に少しでも放射能を気にせず外で遊べる機会を提供しようと高木俊介さん(た

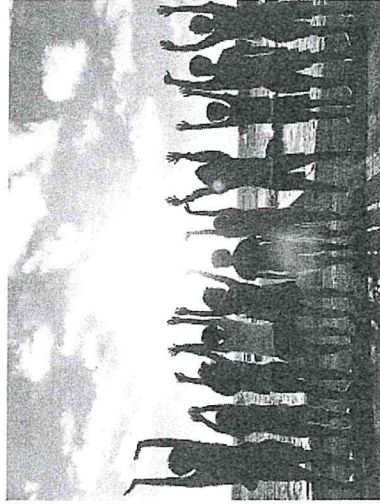
かぎクリニック院長)を代表に、東京八丈島の村上文江さん(ロベの会)を事務局代表にして「福八子どもキャンププロジェクト」が2012年からスタートしました。

「おじやりやれ」八丈島の方言で「ようこそ、いらっしゃい」という意味です。八丈島空港でこの文字を見るとキャンプが始まるんだなと実感します。私は2015年から

参加し、今年で4回目でした。子供達は約30人、大人は福島・八丈島・東京・京都等のボランティアが約20人と大規模な一週間のキャンプです。



1日のスケジュール



朝日に向かって

早く送り出してくれる職場や一緒に働いている仲間には感謝しかありません。通常業務が一番大事ではありますが、広い視野を持ち、西陣会に居るからこそ、自分だから出来ることに今後も携わってほしいと思います。

が何を想い、どうしたいか、しっかりと伝えてくれたことで継続されています。大人達もまた、回を重ねる毎に成長していく子供達に会えるのが楽しみでなりません。きっかけは震災のため、複雑な気持ちはありますが、かけがえのない出会いになりました。きつと来年も出会えるはずですよ！

地域生活支援二ユース

西陣会居宅サービス係

京都市居宅介護等事業連絡協議会について

サービス提供責任者 永瀬 健太郎

京都市居宅介護等事業連絡協議会(居連協)という組織があります。文字通り、京都市内の居宅介護等事業の連絡協議会で、支援費制度の始まった2003年度の発足ですが、現在、正会員(居宅介護の事業所)約120、協力会員(居宅介護以外の事業所)約25、計150箇所近くの組織となっております。二カ月に一度のペースで定例会や研修会を開催し、京都市への様々な要望や懇談等の中で京都市の制度施策に反映されてきた実績もあり、全国的にもこの規模の、このような組織は珍しいのですが、西陣会居宅サービス係はその事務局という役割を担っています。

昨年度3月に「障がいのある人のあたりまえの選択を支えるために」という臨時会議を、講師に松波めぐ

み氏(龍谷大学非常勤講師ほか)をお招きして開催いたしました。昨年9月に配布のアンケート「障がいのあるご利用者の子どもさん(子どもさんには障がいや疾病の診断がおりていない)への支援において、対応に苦慮されたケースがありましたか? またどのようなケースでしたか?」の項目にて「双極性うつの人(母親)が子育て出来ないから、という理由で沐浴等の依頼が何件ありました。家事援助でしか算定できないことや、必要性のギモン点が多く引き受けず断っています。他にも子育てはできるけど掃除は出来ないとか、一言で言えば「育てられないなら産むな!! 増やすな!!」です」というご意見があったことを受けての開催でした。確かに家事援助でしか算定できないこと等々、問

題は多く、こういったご家庭を支えていくためには？と考えると、多いのですが、最後の一言……。松波先生のお話から、旧・優生保護法にて強制不妊手術が1996年まで続いていたこと等を学び、私たちがどのような姿勢・価値観で支援に臨むのか、自分の中に優生思想があるのではないか？といったことを、改めて問い直すきっかけになりました。

今年度も様々な内容で定例会を予定しています。7月に京都市住宅政策課の方が西陣会に来られ、シェアハウス小松原やネイバーフッドきたまちに大変関心を寄せておられました。そこで来年1月には、現在会員事業所が感じている「住まいに関する課題」等についても出して頂きながら、京都市住宅政策課の方にもご出席頂き、「障がいのある人の住まい」をテーマにした定例会を開催予定です。

私自身、事務局員として関わらせて頂き5年目ですが、関わる皆様一人一人の声を大事に、有意義な会の開催、行政への要望等、これからも活動していきたいと思っております。

デイセンターふらっと

新たな生活を始められて

副所長 本林 直人

デイセンターふらっとのご利用者で、小松原の家にお住まいだった方が7月末からマンションでの一人暮らしを始められ、空いた小松原の家には8月初めから新たなご利用者が入居され、互いに新たな生活を始めています。

マンションでの一人暮らしを開始された方は、朝食や出発準備、夕方は入浴や夕食、夜には就寝準備などの支援を受けて生活をされています。夜間に関しては、小松原の家にお住いの時から、トイレに起きてこられる位で、直ぐにまた眠られていたこともあり、今のところお困りのことはない様子です。朝はヘルパーが行くと着替えを済ませて、布団も畳んでおられ、朝食の簡単な準備までされていることもあり、機嫌よく過ごされています。

小松原の家に入居された方は実家を出ての生活は初めてです。ただ、ショートステイゆうを利用されている方も、その時の流

れと同じ形で新たな生活を始められたことで、大きな混乱もなく、過ごされています。しかし、最近では慣れてこられたからか、朝起きにくくなっておられ、送迎車の時間に少し遅れることが出てきておられます。

デイセンターふらっとは日中活動の時間のみ一緒に過ごさせて頂いていますが、新たな生活を始められる方が混乱されないように、これまでの活動で知れたご利用者のことを、ヘルパーなど支援者に伝えていき、実家に居られたときはご家族と連絡帳にてご様子を確認していましたが、それぞれに必要な内容を記載できるようにしたファイルを作成して、共有を図り、困りごとなどに早く気づき対応できるようにしています。

新たな生活の始まりが上手くいつても、この先まだまだ色々なことが起きていくと思います。早く気づき早く対応できるようにこれまで以上に他の部署とも共有連携していきます。

西陣会ホームきたまち

第二五回日本グループホーム学会 全国大会inあいち2018 参加報告

生活支援員 尾崎 暢俊

2018年7月14日と15日、第15回日本グループホーム学会全国大会に参加してまいりました。会場が普段は足を運ぶことが稀な愛知だったことから、現地でホームレス・生活困窮者の支援をされているNPO法人ささしまサポートセンターさんにもお邪魔して、長らく携わられている権利擁護のための取り組みについてお話を伺ってきました。

全国大会1日目の基調講演「相互エンパワーメントからの共生」(北野誠一さん)の中で、エンパワーメントとは何か？という問いに刺さるものがありました。「(当事者の)力を引き出す」といったニュアンスで使われることの多い言葉ですが、講演では「生活主体者として、共に生きる価値と力を高めること」と改めて定義

されていました。このことはエンパワーメントが個人の持つ力ではなく、人と人の間に生まれる力(関係性)であることを意味しています。自己決定さえできればいいということではなく、その自己決定が周囲にも意味や価値のあるものと認められ、認められている実感と実態がその人にあるということが重要です。

支援者として関わる時、その人が「できるから/できないから」という強みやリスクを念頭に置いて提案をしてしまう場面がままあります。それは支援者が内面で持つ一定の基準に、その人のありようを接近・適合させるだけのものになりがちです。そうなるのではなく、「これがしたい」という当人の思いから出発して「では支援者として自分に何

ができるのか」「この人と自分で何ができるのか」と問いながら、共に作っていきこうとする意識が必要なのだ」と改めて感じました。

パネルディスカッションでは「支援者に対して気を遣うことはあるか？」の問いに対して、今現在グループホームで生活されている方から「最低限してくれればそれでいいか、と自分の要求を黙っていることはある」というお言葉があり、普段より信頼関係を築けているかどうか、その人の「したい」気持ちに触れるための重要な契機になっていることを示しておられたように思います。

2日目の実践発表で他のグループホームで働いておられる人の現状の片鱗を垣間見ることとなりましたが、入所施設よりグループホームで生活することを選ばれる方が増える一方で、支援者の養成と数の確保は、全国的にもまだまだ追いついていないように感じました。支援者に余裕がない状況は入居者にとっても望ましく

ない状況であるため、生活の質向上のためにも喫緊の課題と感じました。

講演・実践発表の一方で本人部会実行委員による企画も進行していました。援助者は求められない限りは手も口も出さず、実行委員と参加者の皆さんで企画・運営されており、壇上で委員の方々がそれぞれの思いを語っていただきました。

そもそもこの全国大会の主催が「障がいのある人と援助者でつくる日本グループホーム学会」であり、支援者主導・支援者だけのものではない、ということはお忘れはいけないことだと思います。入居者さんたちと一緒に旅行もかねて参加されている団体も少なからずあり、今回西陣会は支援者としてのみの参加でしたが、ゆくゆくはホーム関係者みんなで参加しましょうと、閉会後にそんな話にもなりました。

学会閉会后、NPO法人ささしまサポートセンターにて、藤井克彦さんよりお話を伺ってきました。

不況と両足の痛みから、仕事が見つからずに野宿生活に追い込まれてしまった林勝義さんの生活保護が拒否された件に関する訴訟(林訴訟)の支援運動の中で、福祉事務所が一般の法律ではなく職場の慣習を根拠に動いているさまを、藤井さんは目の当たりにしてこられました。この権利侵害は福祉事務所が「ただただわかっていない」ことにより起こったものであり、権利問題は「法律上の根拠を問いただすこと、相手を教育することで戦える」というお話が印象的でした。

すべての社会問題は権利問題と言っても過言ではないと思います。隣で生きているこの人と、自分の立場は平等か？の疑問なくして自分が誰かの権利を侵害する瞬間に気付くことはできないでしょう。

支援者としての意識以前に、権利の擁護者としての意識をもって日々臨んでいきたい。そんな風に考えさせられる2日間でした。

支援センター「きらリンク」

圏域相談支援事業所研修

相談員 塩田 真里絵

きらリンクでは、基幹型支援センターの圏域事業として、今年度は『そこが知りたい！ 計画相談』という連続講座を企画しました。

北部圏域である北区・左京区にある福祉事業所や医療機関の職員に参加していただき、サービス等利用計画の作り方を学び、座談会での悩みや疑問を共有しましたが、その分些細な事までざつぐばらんに話すことができ、特に座談会はあつという間に終了時間がきてしまったように思います。

今回の研修会には、計画相談業務についている、いわゆる「一人職場」の事業所の相談員や、計画相談支援をまだ実施していない事業所の方なども、「他の事業所の相談員と意見交換会や勉強会をしたい」と受講し

ていただきました。

きらリンクは現在5名の職員体制です。業務で迷うことや行き詰った際には他の相談員にアドバイスを求めたり、話し合いをおこなったりすることができ、メンバーが固定されているため、考えの幅に限りがあるように思います。企画側ではありませんが、この研修会で様々な意見や考えを聞くことにより、毎回新たな気づきを得ることができていると感じています。

この研修事業は今年で5年目ですが、同じ北部圏域の職員同士の交流の場としてさらに意義のあるものにしていければと思います。そしてこの研修会を通じてお互いに高め合い、それにより良い支援としてカタチになり、目の前のご利用者へ届けられたらと思っています。

路地震又テーションニュース

西陣児童館

いろんな誰かと繋がる場所

鬼塚 義 正

学童クラブって子ども達にとつてはどんなところでしようか？

楽しいことができるところ？

ほっこりできるところ？

行かなあかんとこ？

がくどうつていう習い事？

おもしろい友達がいるところ？

時々子ども同士で話していることが聞こえてきます。

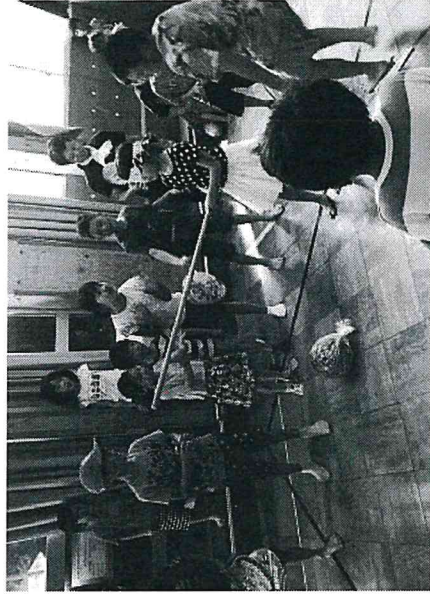
現在学童クラブでは、小学生の子ども達が約90人程登録しており、3つの小学校を中心に子ども達が来館しています。

学童クラブは、生活の場としての生活援助や遊びを通した健全育成などを目的としています。だからこそ、子ども達にとって、毎日が同じような流れで安心して過ごせる場であるとともに、楽しく遊べる場所、貴重な経験ができるよう日々様々な行事も実施しています。

そして、子ども達自身が様々な力を成長させ発揮できることを目指した関わりを心掛けています。自分のことも相手の事も大切に思いやれること、ありがとうやごめんをはじめ自分の意見も自分から発信できること、基本的習慣を身につけること、

自分自身で遊びこめること、いろいろな相手と上手にコミュニケーションしていくこと……挙げればきりがありませんが、学校も学年も違う相手に出会い過ごすことができる学童クラブだからこそ得られる大切なことがたくさんあります。

更に児童館の学童クラブという場所では、いろんな人と出会えます。



「みんなで応援☆スイカわり！」

小学生だけでなく、中高生乳幼児親子、大学生などのボランティアや地域のおっちゃんおばちゃん、家族とは違う大人である職員もいます。

子ども達にとってこの場は、誰かというから面白く、いろんな誰かと繋がることのできる。たくさんのおもしろいを一緒に作る事ができる。児童館・学童クラブがそんな場所であるようにこれからも試行錯誤しながらやっていきたいと考えています。

★毎日を楽しく!! 子ども達と関わるボランティア絶賛募集中です★

京都市障害のある中高生のタイムケア事業「ついで」 人とのつながりが「ついで」を彩る

藤 賀 一 暢

暑い、いや暑すぎる夏休みが終わりました。夏休み期間は朝9時〜夕6時まで、放課後とは異なり長い時間を過ごします。

夏休みだからこそできること、何があるでしょう。実際に子ども達は何を楽しみ返していたのか?と思いいつも会える!!」ことだったのかもしれない。

夏休みは時間が長い分、多くのスタッフの力が不可欠です。主婦の方、学生さん、様々に働いてくださっています。そして、いつも温かく見守ってくださるボランティアさん。大人たちとの出会いは子ども達にとってかけがえのないもので、この夏もこの人と遊びたい!

「遊べた!」という期待と充実には満ちた笑顔が溢れました。「ういず」はカラフルに彩られ、学生さんとの繋がりがりも年々強固な「B L C」京都

府立大学を中心とする「たろろ」とはなご」。いずれも障がいのある子どもに関わるサークルですが、合同での運動会や勉強会を定期的に行い、関わりを深めてきました。今では学生さん達の活動の相談を受けたりすることもあり、本当に有難いことだと感じています。将来をしつかり見据えている人や漠然とした不安を持っている人、色んな思いを持つ色んな大人がいます。子ども達も一緒にその日その時で揺れ動きながら、色んな思いを抱えていきます。そんな皆が「ういず」で出会い、共に過ごし、思いが触れ合っていく……そうやって「ういず」は彩られていきます。



大徳寺へお散歩!



活動日誌

【本部業務・公益事業】

7月

- 4日 評価・面談
制度の構築研修
(小西)
- 7日 新任職員研修会
(尾上社労士)
- 9日 嘉楽体操体育祭説明
会参加(MYM鬼塚)
- 10日 児童館耐震工事入札
月曜集会
- 10日 新任職員研修会
(浅田常務理事)
- 11日 レクリエーション委
員会
- 21日 職員自主研修「応用
行動分析」(五十嵐 森)
- 28日 産業医面接相談会
理事会

8月

- 12日 総務委員会
- 13日 キャリア
パス&個別相談
(小西)
- 18日 元四丁目地蔵盆&足
洗い(中山)
- 19日 西亀屋町地蔵盆&足
洗い(五十嵐)
- 25日 小松原北町南部地蔵
盆(本林・森)
- 25日 MYMバレーキュー
&スイカ割り
- 27日 キャリアパス&人材
育成推進委員会
- 28日 産業医面接相談会
法人内部登用試験&
4次選考
- 29日 人材育成検討委員会

9月

- 10日 理事会
- 10日 月曜集会

- 18日 キャリアパス&人材
育成推進委員会
- 27日 管理職研修
産業医面接相談会

西陣児童館

クールキッズプログラム

- 7月24日 映画会スペシャル
- 8月4日 流しそうめん
- 8月7日 感触遊び
- 8月23日 かき氷大会

7月

- 1日 学童クラブ
保護者会夏のレク
リエーション
- 7日 学童クラブ夏の保護
者説明会
- 25日 天神さんお出かけ

8月

- 7日 科学セン
ターお出かけ
- 21日 第1アロッ
クドッジ&ゲームフェ
スティバル
- 24日 防災センターお出かけ

9月

- 1日 基幹ステー
ションイベント
『ドクニヤカンが
やつてくる』
- 15日 民間ネットワーク総会
研修会・懇親会(中山)
- 22日 基幹ステーションイベ
ント『カブラDE
遊ぼう』
- 29日 出前児童館五橋公園

【居宅サービス係】

7月

- 8日 居宅職員
会議
- 10日 上京区障害

- 10日 児者生活支援連絡会
(近藤)
- 10日 サービス提供責任者
会議
- 19日 京都市居宅介護等事
業連絡協議会定例会
(浅田・永瀬)
- 28日 集団活動企画「湖水浴」

8月

- 4日・12日 集団活動企画「湖
水浴」
- 10日・11日・12日 研修
移動支援従業者養成
- 24日 居宅職員会議
- 24日 サービス提供責任者
会議

9月

- 2日 集団活動
企画
- 9日 居宅職員
会議
- 12日 京都市居宅介護等事
業連絡協議会(浅田・
永瀬)
- 14日 サービス提供責任者
会議
- 18日 上京区障害児者生活
支援連絡会(近藤)
- 26日 となり・きたまち調
整会議(近藤)
- 29日 ヘルパー研修会
(森・尾崎)

【ライオン会】

7月

- 6日 強度行動
障害支援者養成
研修会(4日(基礎)
(一名))
- 25日 全体行事：流しそ
うめん
- 28日 新任職員研修(二名)

8月

- 17日 海水浴in
神崎浜・赤レンガ
博物館

9月

- 6日 集団歯科
検診
- 20日 全体行事：
縁日

【きらりんぐ】

7月

- 2日 強度行動
障害支援者養成
研修(2日・5日)
- 6日 北部自立支援協議会
運営会議
- 19日 基幹型支援センタ
ー研修事業北部圏域相
談支援事業所座談会
- 27日 左京こころのふれあ
いネットワーク総会
- 31日 北部自立支援協議会
地域懇談会

8月

- 4日 生活困窮
社会における地
域づくり研究会
- 19日 精神障害のある人の
家族セミナー(東京都)
- 20日 市社協日常生活自立
支援事業審査会
- 28日 基幹支援センター会議

9月

- 3日 京都市障
害者虐待対応に
関する業務研修
(3日・4日)
- 10日 北区こころのキャン
パスネットワーク実
務者会議
- 23日 京都府IT事業重度
障害者意思伝達装置
実践研修会・スイッ
チ作成
- 26日 京都府障害者虐待防

【にしじん】

7月

- 2日 支援セン
ター会議
- 5日 中部自立支
援協議会事務局会議
- 18日 中部自立支援協議会
医療的ケア専門部会
- 24日 基幹支援センター会議
(8月1日)
- 28日 京都府DWA(岡山県派遣)

8月

- 8日・9日 相談支援従事者
現任者研修講師
派遣
- 16日 中部自立支援協議会
運営会議
- 23日 支援センター部
会相談支援専門員カフエ
- 29日 相談支援専門員等
スキルアップ研修

9月

- 3日 上京ネッ
ト会議
- 6日 強度行動
障害インストラクター
研修
- 13日 相談支援従事者
初任者研修講師派遣
- 20日 基幹支援センター
普及啓発研修

※毎月、施設長会議・主任会
議を実施しています。
その他、諸事業諸活動にお
いても定例活動を行ってお
ります。

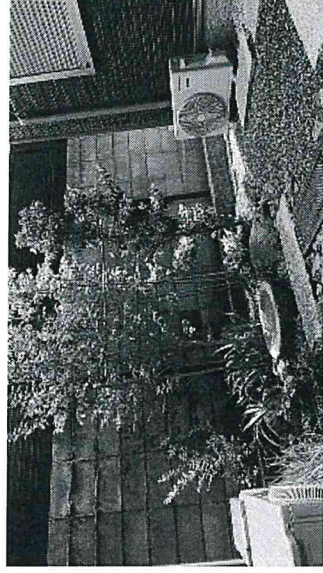
きたまちの中庭が見違える ものになりました！

西陣会ホームきたまち
所長 宮崎 一 弥

この度、西陣会ホームきたまちに入居された高石さんのご家族（造園業を営まれています）から、きたまちの中庭を、素敵な庭にして頂きました。

開所当時は、砂利敷きのままの少し寂しい感じであったので、プランターでも置ければ良いねと話していたのですが、お陰様で何も無い中庭がこんなに素敵な庭園に生まれ変わりました。私たち素人では当然ここまでの仕上げはできません。

日常の生活に彩りを加えて頂き、入居者の皆さま、職員一同より、この場をお借りして、心より感謝申し上げまするとともに、皆様にご報告させていただきます。



センター往来

- ◎ 7月7日(土)児童館耐震補強工事入札が行われました。
- ◎ 7月28日(土)理事会が開催され、児童館耐震補強工事の契約業者が確定しました。
- ◎ 8月18日(土)地元の元四丁目町内会の地蔵盆が、例年通り東館2階で行なわれました。また、夜は足洗いがあり、西陣児童

- ◎ 8月19日(日)西亀屋町内会の地蔵盆が西亀屋町にある法人物件で行われました。デイセンターふらつと五十嵐主任がお手伝いさせていただきました。夜の足洗いにも参加させていただきました。町内会の方々と交流を図ってきました。
- ◎ 8月19日(日)小松原北町南部町内会の地蔵盆にデイセンターふらつと本林副所長、シェアハウス小松原の家担当の森が参加させていただきました。
- ◎ 9月1日(土)理事会が開催され、半期の事業報告等の承認を受けました。
- ◎ 9月9日(日)「西陣の朝市マルシェ」に出店させていただきました。
- ※お祝い
- ◎ 7月15日(日)西陣会居宅サービス係森勇輝さんが入籍されました。
- ◎ 7月16日(月)きらリンク

館中山館長が参加させていただき、地域の方との交流を深めました。

入 職

居宅サービス係

山崎 喜則(7月23日)

退 職

法人本部

林 みどり(7月31日付)

居宅サービス係

芦田 浩靖(7月31日付)

デイセンターふらつと

山口 弘美(7月31日付)

赤井 亜依(8月31日付)

高橋 春善(8月31日付)

◎ ショートステイゆう所長の寺田文さんに、8月4日(土)第二子となる女の子がご誕生されました。おめでとうございます。

計 報

八月二十六日(日)小松原の家家主の市田光子様(享年九十五歳)がお亡くなりになりました。天上での平安をお祈りいたします。

職員人事(常勤職員)

住所変更のある方、当機関誌のご不要な方はFAXにて(075)451-5700 迄ご連絡下さい。

社会福祉法人 西陣会

- 法人本部
- 京都市民福祉センター
- 地域活動支援センター
- ふらつと
- 地域生活支援事業
- レスパイトサービス

TEL(075)451-8971
FAX(075)451-5900

- 西陣児童館
- 京都市障害のある中高生のタイムケア事業ういず

TEL(075)451-8971
FAX(075)451-5900

- 西陣会居宅サービス係
- 相談支援事業所きずな

TEL(075)417-3120
FAX(075)441-5551

- デイセンターふらつと

TEL(075)417-3121
FAX(075)441-5551

- 西陣会ホームとほり
- ショートステイゆう

TEL(075)461-3066
FAX(075)441-5551

- 西陣会ホーム きたまち

TEL(075)461-3355
FAX(075)461-3355

- 京都市中部障害地域生活支援センターにしじん

TEL(075)417-1630
FAX(075)451-3619

- 京都市北部障害地域生活支援センターきらリンク

TEL(075)751-0106
FAX(075)751-0107